

T O P I C S

第143回日本獣医学会学術集会の開催

第143回日本獣医学会学術集会が動物衛生研究所の司催で、平成19年4月3日～5日の3日間、つくば国際会議場（エポカルつくば）を中心とした会場で開催された。

プログラムの概要は、以下のとおりであった。

1. 獣医学会本部企画
 - I. 日本獣医学会賞受賞講演
 - II. 越智賞受賞記念講演
 - III. プレナリーセッション
2. 司催機関企画
 - I. 招待講演 I
「寄生虫ミトコンドリアの多様性：化学療法の標的として」
北 潔氏（東京大学）
 - II. 招待講演 II
「センダイウイルス物語－日本発の知と技」
永井 美之氏（理化学研究所）
 - III. 公開講演
「盲導犬は最高の家庭犬」
多和田 悟氏（財団法人日本盲導犬協会）
 - IV. 緊急シンポジウム
「新たな高病原性鳥インフルエンザの発生を受けて」
 - V. 司催機関・日本中央競馬会共催ワークショップ
「競走馬の獣医師の挑戦－最大限のパフォーマンスを求めて」
 - VI. 司催機関・野生動物医学会共催シンポジウム
「ライチョウの保全医学－ニホンライチョウ保全のための獣医学」
 - VII. 公募ワークショップ
「画像診断先端技術の実践的展開」
「家畜臨床現場における繁殖障害の実態と今後の課題」
「主要組織適合抗原と疾患解析の最前線－臨床応用への展望－」
3. 春期学術集会企画委員会企画
各学会・分科会企画のシンポジウム、ワークショップ、ポスターセッション等。

本学術集会では、テーマを広く募集した「公募ワークショップ」を試みたほか、高病原性鳥インフルエンザの発生を受けて緊急シンポジウムを開催した。その結果、1,300名を超える方々の参加をいただき、成功裏に終えることができた。また、公開講演には、多くの市民の方においでいただいた。学術集会の運営にご協力いただいた関係各位にあらためて感謝申し上げます。

なお、元農研機構理事寺門誠致氏が越智賞を、人獣感染症研究チーム主任研究員真瀬昌司が日本獣医学会賞をそれぞれ受賞し、それぞれ講演を行った。

（第143回日本獣医学会学術集会事務局）



公開講演 多和田悟氏（財団法人日本盲導犬協会）